

12 大阪通信制高校グループの目指す教育

大阪府下における通信制高等学校の動向は目まぐるしく変化しています。

先述のとおり、大阪通信制高校グループ12校を含む、府下の通信制高校学校関連の教育施設は、約250にも上ります。街中を見渡せば、至るところに、「通信制高校」と名のつく看板を見かけることがあるかと思いますが、それぞれの学校が、どのような仕組みの学校であるかを、深く理解することが困難になっているのが現状です。入学を検討する生徒・保護者、進路指導を担当する教職員の皆様に今一度通信制高校教育のシステムや、現状をしっかりと認識していただくために、当グループは研修機会を多く設け、活動を行っております。

大阪府内の通信制高等学校の現状



前章の「令和の高等学校教育」で示されているとおり、高等学校教育の在り方は今後大きく変化していきませんが、通信制高校自体も、その教育内容を大きく見直ししていく必要がある時期に差し掛かっています。大阪通信制高校グループとしては、右記の点を重要視しながら教育内容の充実を目指していきます。

- 高校教育の目的は「卒業」だけではない
- 学校へ登校することの重要性
- 他人と接する機会の構築
- 学ぶ方法の多様化+α(アルファ)を重要視
- 自校の教育内容の追求

高校教育の目的は「高校卒業」の資格取得のみではありません。教育内容の「効率化」に偏らず、学校へ登校できる機会の増加を大切にします。インターネットや情報機器の活用は、教育学習ツールとして有効に使用しますが、あくまでも対面授業の重要性にこだわり、カリキュラムを構築します。

また、高校は勉強だけではなく、他人と直接触れ合う機会でもあります。友人や先生との関わりの中で発生する気づきを子供たちに与えたいと考えています。学ぶ方法の多様化を考えるのは当たり前の時代になっていますが、そこにプラスアルファでどのような教育を行えるかが重要であるため、通信制高校の教育システムの中でできることを誠実に考えていきます。当グループ12校は、それぞれ切磋琢磨しながら、自校の教育内容を追及してまいります。

大阪通信制高校ガイド

大阪通信制高校グループ監修



INDEX

1 現在の通信制高等学校に求められているものとは	01
2 通信制高校の仕組み	03
3 通信制高校のスクーリングと通学	05
4 変化する通信制高校の学びの形	07
5 通信制高校と提携する教育施設	09
6 通信制高校の進路指導	10
7 大阪府の通信制高校教育の現状	11
8 今後の高等学校教育の動向	13
9 通信制高校の授業料と学費補助制度	14
10 通信制高校に通う生徒の様子	15
11 大阪通信制高校グループ紹介	17
12 大阪通信制高校グループの目指す教育	19



大阪通信制高校グループの取り組み

大阪通信制高校グループとは、大阪府より認可を受ける学校法人立の通信制高校12校で形成されているグループで、設立より12年を迎えました。グループ設立趣旨は、過去と大きく形を変え、多様化していく通信制高校教育の内容や現状を教育関係者の皆様に正しく理解していただくために、最新の通信制高校教育の動向をお伝えする定期的な教育研修会の開催や、各校の教育実践報告会などを実施しています。

また、生徒・保護者を対象とした「合同相談会(夏・秋)」も開催しています。目まぐるしく変化する通信制高校教育の状況に適切に対応し、進学を希望する生徒に対し、魅力的な教育内容を検討・提案していくグループです。



近年、通信制高校への求められるニーズが大きく変化してきています。また、それは変化とともに多岐に渡ることとも特徴としてあげられます。

今までは、「学業と仕事の両立」を希望する方、高校を中途退学・留年した生徒の転編入学の希望先というのが通信制高校への大きなニーズでしたが、現在は、転編入学生に加えて、中学校を卒業してすぐに通信制高校へ入学する新卒生の割合が増加しています。新卒生の中には、小・中学校時代に不登校を経験している生徒も多く存在します。また、学力不安や発達課題を抱えているケース、起立性調節障害などを理由に、朝からの登校が困難なケース、さらに集団行動に苦手意識があり全日制高校に通えないなど、様々な生徒が在籍しています。

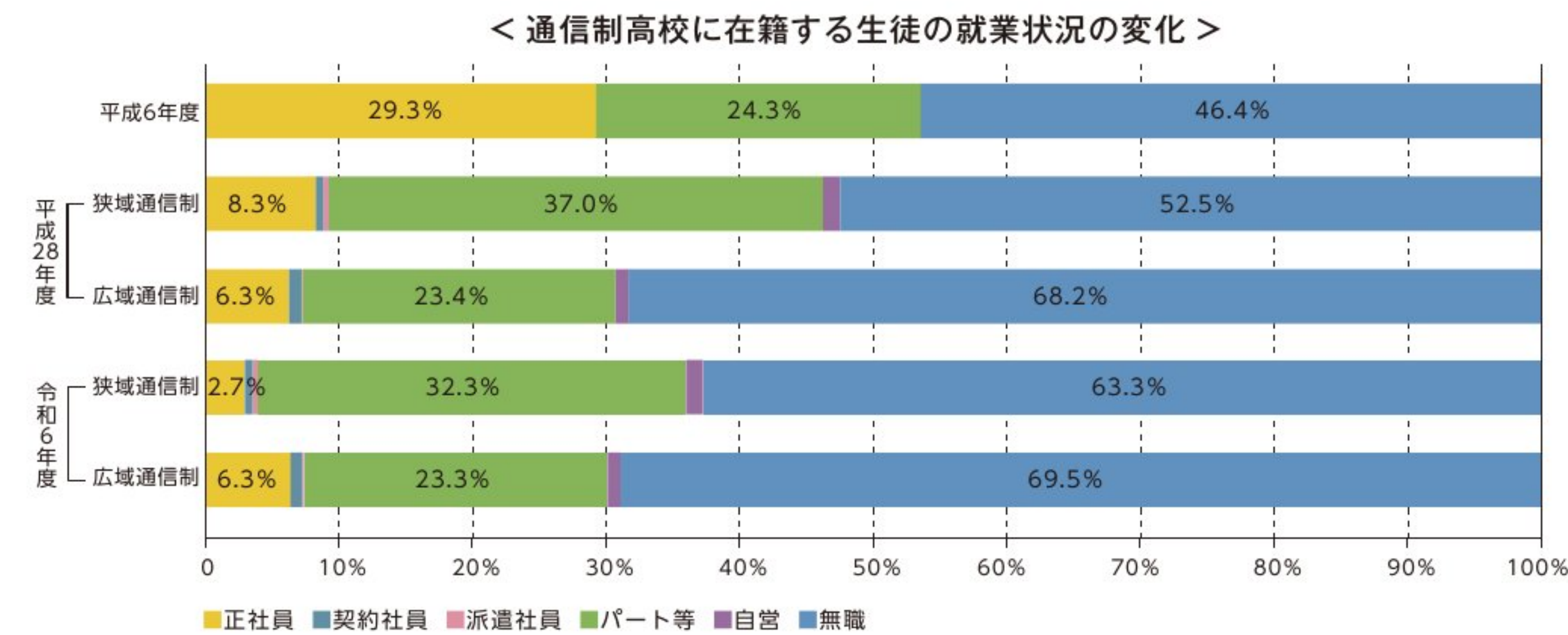
比較的柔軟に学習計画を立てることができる通信制高校の特色を活かして、資格取得勉強やスポーツ活動・文化活動・芸能活動と並行して学んでいる生徒もいます。20年以上前のニーズである「学業と仕事の両立」や「登校日数を極力減らしたい」から、高校卒業資格を得るために「自分のペースで沢山学びたい」というニーズの変化を教育現場として強く感じているところです。

また、通信制高校と言えば「自学自習」のイメージが強くありましたが、上記のニーズの変化と合わせて「勉強や進路を手厚くサポートしてほしい」、「生活習慣の改善に力を入れたい」などの保護者からの要望も増加しているのが現状です。

このように変化し多様化するニーズに合わせて、現在の通信制高校は様々な教育システムや生徒指導・生活指導・進路指導を含む、特色のある学びを目指した学校運営を行っています。

通信制高校に在籍する生徒の就業状況及び実態等

○通信制高校の在籍生徒に占める就業者の割合が減少する一方で、小・中学校及び前籍校において不登校経験を有する生徒の割合が最も多く、生徒の実態が寛容している状況にある。



通信制高校に在籍する生徒の実態等

	狭域通信制	広域通信制
小・中学校及び前籍校における不登校経験がある生徒	65.6%	64.2%
外国とつながりがある(外国籍・日本語を母語としない)生徒	1.0%	0.6%
ひとり親家庭の生徒	28.2%	29.9%
非行経験(刑法犯罪等)を有する生徒	7.9%	8.1%
特別な支援を必要とする生徒	1.2%	0.6%
心療内科等に通院歴のある生徒	21.1%	21.4%

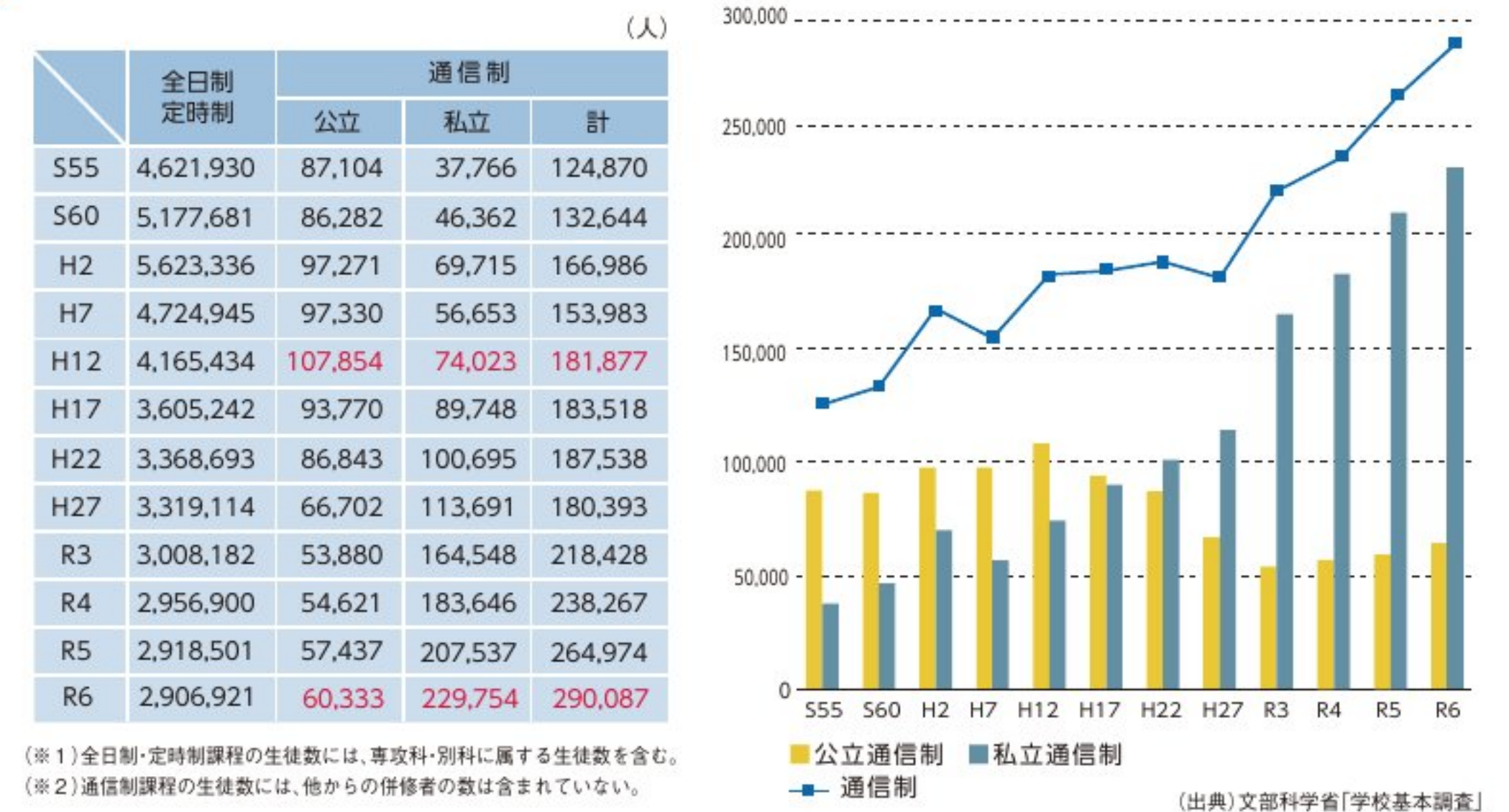
(出典)「定時制・通信制高等学校における教育の質の確保のための調査研究」報告書(令和5年度文部科学省委託事業)

大阪通信制高校グループ12校は、近年のニーズにいち早く対応すべく、各校特色のあるクラス設定、授業設定をおこなっています。

通信制高校に在籍する生徒数、通信制高校の設置校数・単位修得率の推移(公私別)

高等学校の生徒数(公私別推移)

- 高等学校の生徒数の推移について、近年、全日制・定時制課程の生徒数は全体として減少傾向にあるが、**通信制課程の生徒数は全体として増加傾向**にある。
- 公私別で見れば、**私立通信制の生徒数が大きく増加している一方で、公立通信制の生徒数は徐々に減少**している。(平成12年からの25年間で、**私立の生徒数は3倍以上に増加する一方で、公立の生徒は半減**)



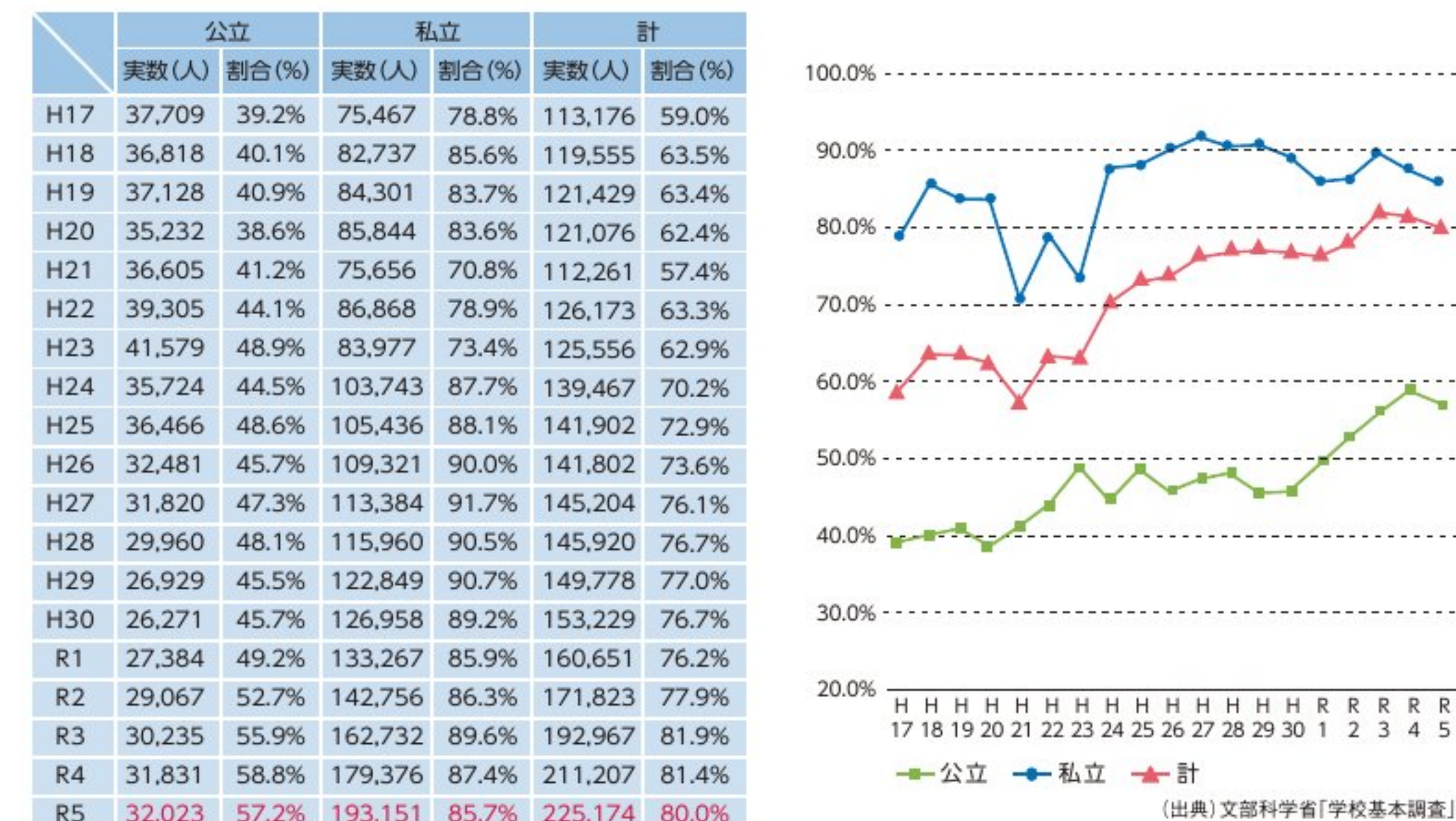
高等学校の学校数(公私別推移)

- 高等学校の学校数の推移について、近年、全日制・定時制課程を置く高等学校の校数は全体として減少傾向にあるが、**通信制課程を置く高等学校の校数は全体として増加傾向**にある。
- 公私別で見れば、公立通信制の校数はわずかに増加している一方で、**私立通信制の校数は大きく増加**している。



通信制課程の単位修得者数(公私別推移)

- 通信制課程の単位修得者数は、全体として増加傾向にある。
- 公私別で見れば、**全体の生徒のうち単位修得者が占める割合は、私立通信制の方が公立通信制よりも高い状況が続いており、令和元年度では、公立通信制が49.2%、私立通信制が85.9%となっている。**



通信制とは

日本の高等学校には「全日制」「定時制」「通信制」と課程が3つあり、通信制はそのうちの1つです。

主な特徴として、高校在学中に行う勉強の学習量の基準の考え方が異なります。学習指導要領においては、通信制高校の学習量の基準として、各教科・科目ごとにスクーリング(登校による面接指導)とレポート(添削指導)の回数が1単位ごとに決められています。

全日制と比較すると比較的緩やかな学習量が下限の基準ですが、学校によっては、週に1日登校や、2日・3日登校、毎日登校など、多様な形態でコース設定を行っており、下限の学習基準を満たすだけではない学習形態となっています。

< 学習指導要領で定める学習量の基準 >

各教科・科目	面接指導 (単位時間)	添削指導 (回数・通数)
国語・地理歴史・公民・数学	1	3
保健体育(体育)	5	1
保健体育(保健)	1	3
芸術・外国語・理科	4	3
家庭・情報・専門教科科目	2~8	2~3

単位制とは

学年ではなく、単位を基準として学習量が決定される仕組みです。

通信制高校の大半がこの単位制を採用しています。各生徒のニーズに合わせた学習計画を立てることが可能な仕組みです。

1年間に履修できる単位数は、各校により定められています。また、高校卒業に必要な最低単位数74単位修得までの計画は、各個人によって異なります。単位を基準に考える制度のため、年度内に単位修得できない科目については、次年度に再履修し修得を目指すことが可能です。学年が存在しないため「原級留置」が無いことも大きな特徴の1つです。

単位修得の仕組み・方法

通信制高校では、スクーリング・レポート・単位認定試験の3つを中心に学習を進め、科目ごとに単位修得を目指します。高校卒業に必要な修得単位数は74単位以上です。また、74単位の修得単位の中には、高校の必修教科目の履修・修得が必要となります。

通信制高校には、他校からの転入学や編入学で在籍している生徒も多くいますが、他校での在籍経験があった場合、その在籍期間や修得単位は通算在籍期間や通算修得単位として認定されるケースが大半です。

また、3年間の高校生活の中で、学習ペースを調整することも可能です。また、事情があって進級できず、転校する場合でも、単位を平均より多く修得することを目指して頑張れば、同級生と同じ時期に卒業を迎えることも可能です。

★例えば「現代の国語2単位、R6枚、S2時間」を修得する場合

◎期日までにレポート6枚提出して合格

◎期日までにスクーリング2時間分の出席(一部、NHK高校講座やメディア視聴教材で時間数減免が可能)

◎レポート、スクーリングを終えると単位認定試験を受験可能(受験して合格→単位修得)



「学年制」と「単位制」の違い

< 「学年制」の仕組み >



学年制の学校は学年ごとの学習量が単位数によって固定されています。同じクラスの生徒は同じ学習量となります。よって、規定の学習量の単位修得ができない場合は、進級できず留年(原級留置)という考え方になります。

< 「単位制」の仕組み >



単位制は、個人別に学習単位(履修単位)を決定するため、同じクラスであっても学習量が異なるケースもあり、仮に単位修得できないケースであっても、次年度に再履修することができます。

通信制高校での学び方

①多様なコース・クラス設定

◎週1日~毎日登校、短期集中型・少人数・個別設定

◎進学サポート充実・基礎学力定着・家庭学習中心



②登校日数軽減のために

◎インターネットを活用した授業(eラーニング)

◎NHK高校講座などのメディア教材の継続学習によって、報告書を提出し、スクーリングの出席時間数免除



③学校と保護者の連絡体制強化

◎担任と保護者の連絡体制に様々な工夫をしています(電話・メール・通信物での連絡など)。

◎低年齢化する通信制高校生徒の指導において保護者との連携は欠かせません。



卒業要件

単位修得の仕組み

スクーリング
(登校による面接指導)

1年間(25単位履修した場合)で20日間程度が基準。
実施場所は本校・分校になります。

レポート
(添削指導)

課題を期日までに提出し、指導を受ける。
実施場所は本校・分校になります。

メディア学習

視聴覚教材を使用し、報告書を提出。
登校日数が最大6/10まで減免されます。

単位認定試験

各期に行われる試験を受験。
実施場所は本校・分校になります。

教科・科目の単位修得

卒業の条件

74単位以上の修得

通算3年間以上の修学

特別活動への
30単位時間以上の参加

高校卒業資格

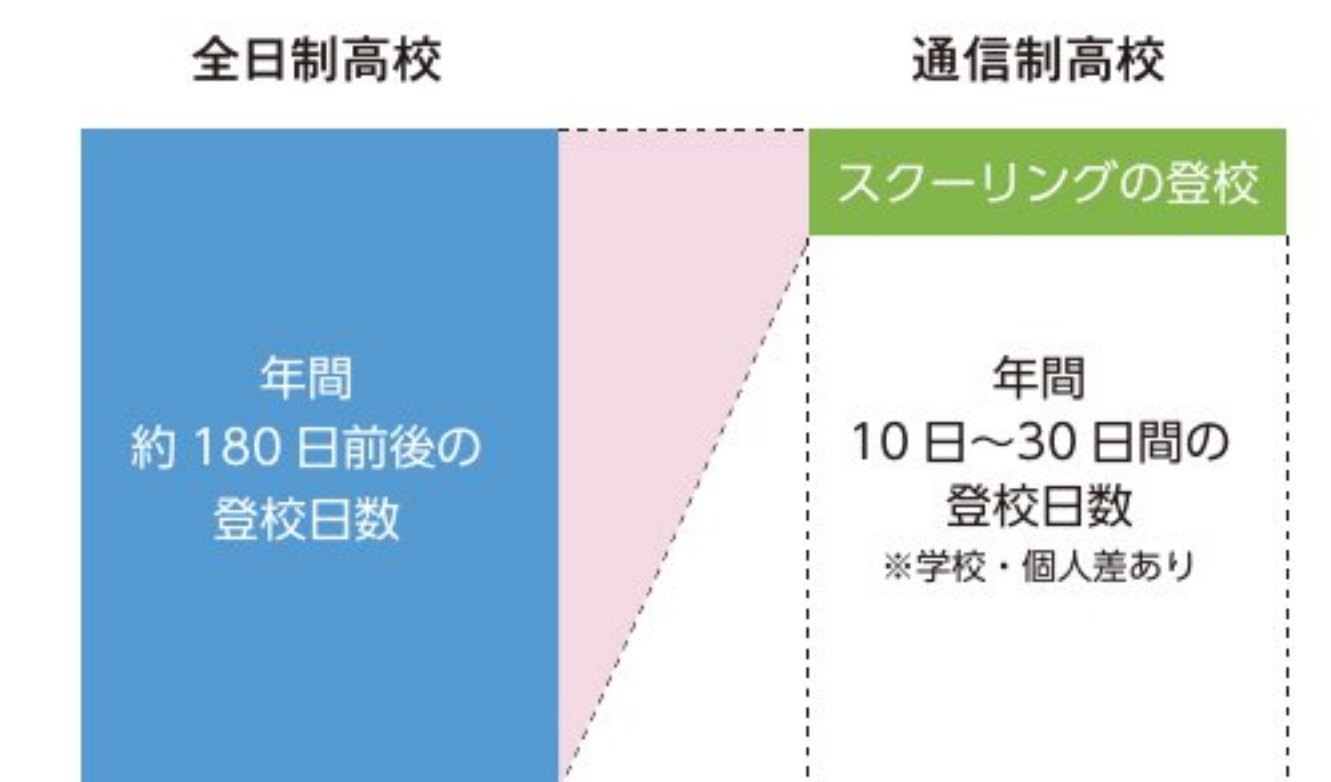
通信制高校の登校日数の考え方 全日制高校との比較

年間の登校日数が約180日となる全日制高校と比較して、通信制高校の登校日数は少ないと考えるのが基本です。通信制高校は、そもそも単位制の通信教育の制度を前提としているため、進級・卒業条件に登校日数を設定しているケースが少ないです。

学校への登校の考え方は前述のとおり、履修科目ごとに設定されている、スクーリング(面接指導)の規定時間数の出席時間数を主に考えられており、「登校すべき日数」ではなく、「出席すべき時間数」で学習計画が考えられます。

生徒は個々で履修している単位数が異なるため、その時間数は個々によって異なります。これを登校日数で考えるとスクーリングや特別活動、試験などを含めて年間10日間～30日間ほどの登校日数となります。

<全日制高校と通信制高校の登校日数の比較>



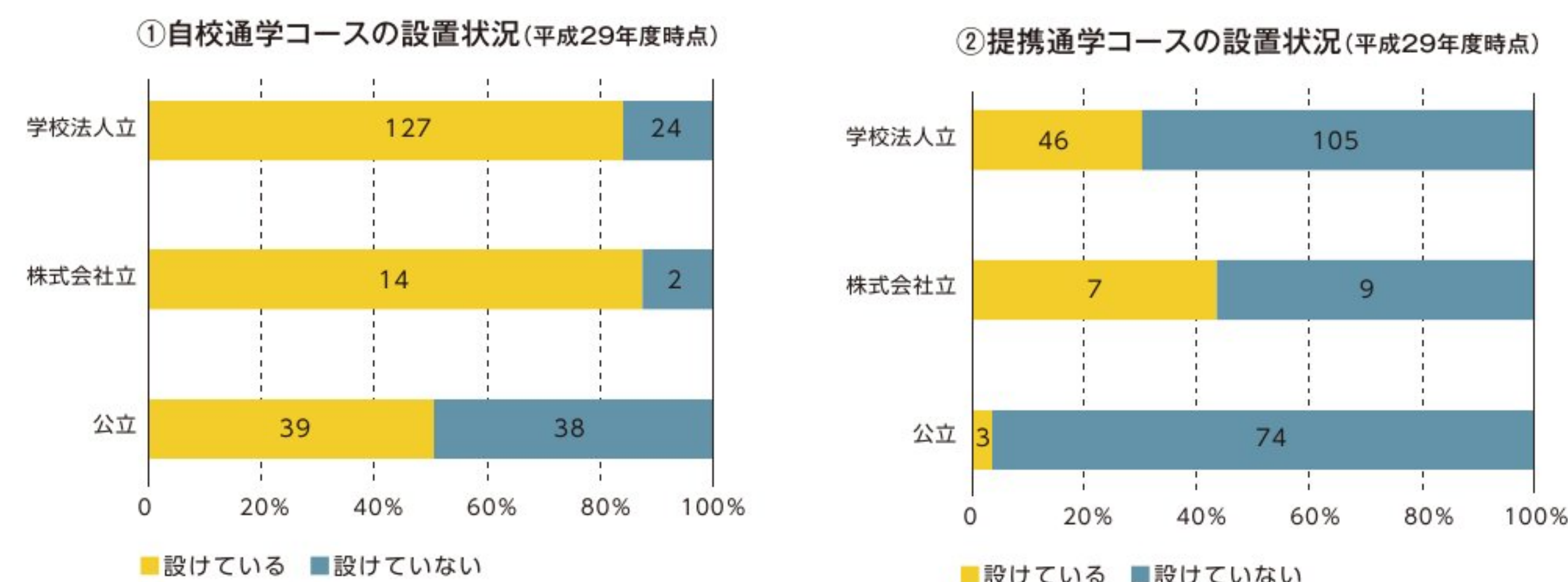
通学型の通信制高校とは？

通信制高校における教育課程は、①スクーリング(面接指導)、②レポート(添削指導)、③試験で構成されており、この他に④多様なメディアを利用した指導を実施した場合は、面接指導の一部免除が認められています。昨今では、この教育課程の学習に加えて、学校に通学して学ぶ生徒が増加しており、「通学型」のコースを設置している通信制高校も多く存在します。生徒は日常的に学校に通学し、学習活動の支援や生活、進路指導面での支援を受けています。

通信制高校の「通学型」コースは、週1日以上通学して学習するコースのことを指し、大きく①自校施設に通学するコースと、②提携施設に通学するコース(いわゆるサポート校)に分類されます。



<通学型コースの設置状況>



(出典) 高等学校通信教育に関する調査結果(平成29年7月文部科学省初等中等教育局)

<「通学型」コースに通う生徒の実態>

	利用生徒総数	校数	週1日のコース	校数	週2日～4日のコース	校数	週5日のコース
公立	15,233	37	12,926	10	1,140	1	370
学校法人立	42,304	71	7,435	70	13,672	60	17,361
うち狭域	10,121	27	1,556	20	3,992	20	3,456
うち広域	32,183	44	5,879	50	9,680	40	13,905
株式会社立	5,081	8	707	12	1,233	9	3,141
合計	62,618	116	21,068	92	16,045	70	20,872

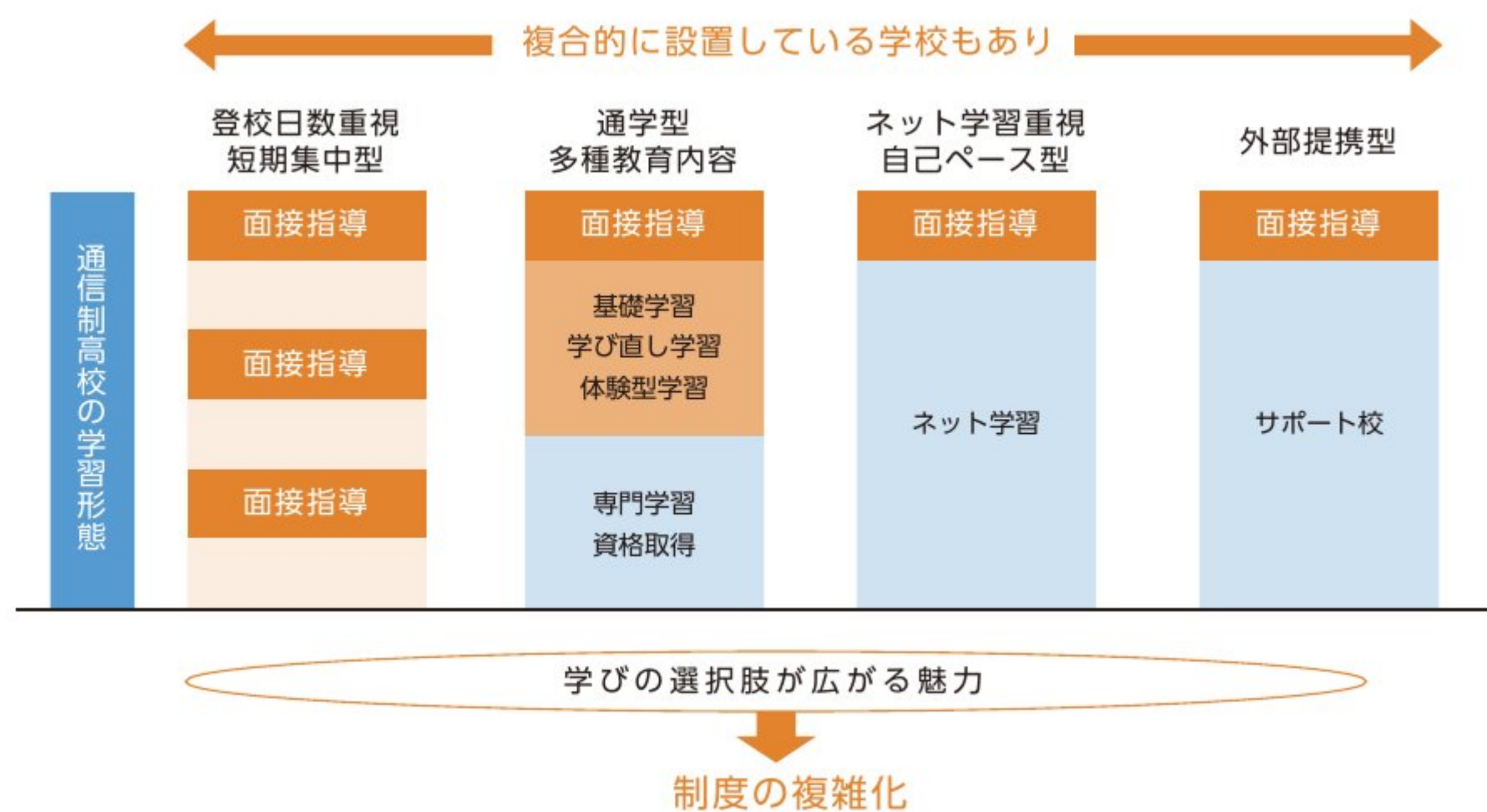
(出典) 高等学校通信教育に関する調査結果(平成29年7月 文部科学省初等中等教育局)

上記図の通り、公立通信制高校より、学校法人立、株式会社立の通信制高校の方が、この「通学型」のコースを設置している割合が高く、通信制高校全体で見た場合、約5割の生徒が、「通学型」のコースで学習をしていることが分かります。

通信制高校に求められるニーズが大きく変化してきたことにより、通信制高校の学びの形も大きく変化してきました。正規の教育課程のみの学習量より、さらに多くの学習ができる形態の学校が増加したことにより、学校による特色が色濃く出てくるようになりました。

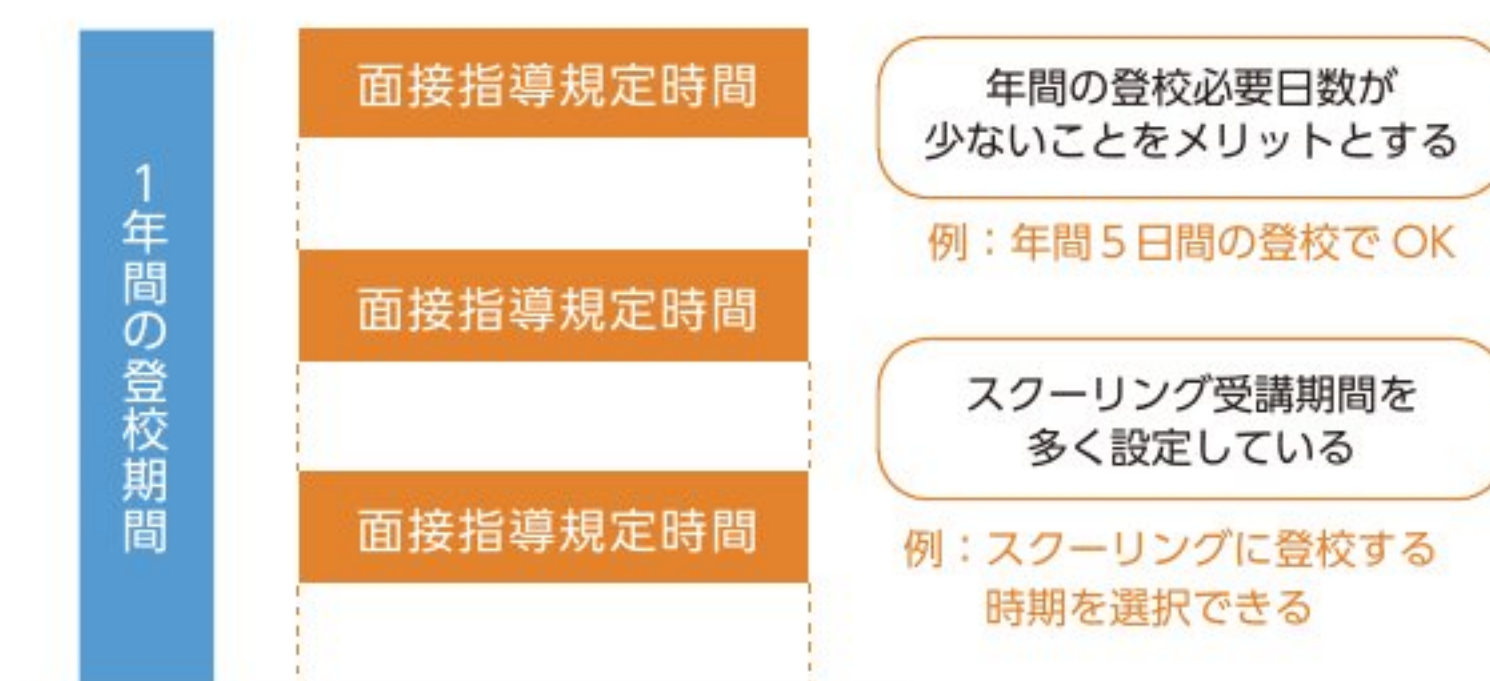


従来は、1年間の登校期間のうち、スクーリング期間のみ登校する学習スタイルが通信制高校の特色でしたが、「自分のペースでより多く登校したい」というニーズに合わせて、スクーリングに加えた登校機会を多く設け、特色のある教育内容を設定する学校が増加してきました。それにより、生徒にとって学びの選択肢が広がる魅力も高まっていることが大きな特徴として挙げられますが、その反面、通信制高校の学習制度が「複雑化」している側面も考えられます。学習形態の特徴として以下のような例が挙げられます。



(1) スクーリング(面接指導)の開講時間数

スクーリング(面接指導)の開講時期や時間数で学習方法の特色を出すケースです。従来の通信制高校のイメージにそった、「年間登校日数の少なさ」を特徴としてあげるケースや、スクーリングの開講時間数を多く設定することによる、「登校時期を選択できる」ことに特色を出す学校もあります。



(2) 通学型コース

週に1日以上に登校機会を設け正規の教育課程に加え多様な学習を設定するケースです。

「通学型」のコースのカリキュラムの特徴としては下記の内容が挙げられます。

- ①習熟度別指導を積極的に取り入れている
- ②義務教育段階の学び直しに力を入れている
- ③大学入試対策に重点化している
- ④職業教育に力を入れている
- ⑤横断的・総合的な学習や探究的な学習の機会を積極的に設けている
- ⑥集団活動や人間関係づくり、コミュニケーションスキル育成等の機会を積極的に設けている
- ⑦生徒指導や教育相談に力を入れている
- ⑧進路指導、キャリア教育に力を入れている
- ⑨個別指導・少人数教育に力を入れている
- ⑩学習ペースをゆるやかに設定することに力を入れている

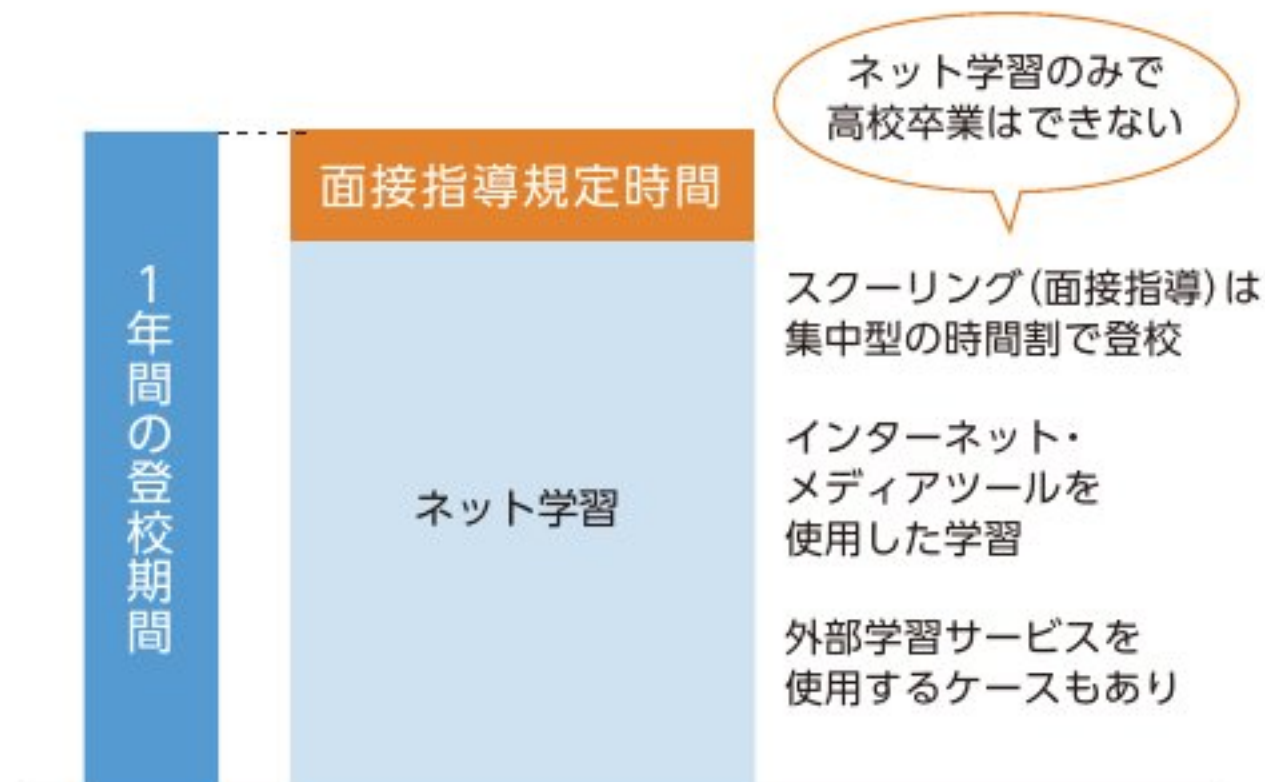


(3) ネット学習型のコース

インターネットを使用した学習形態を学習方法の特色として設定する学校も出てきています。

学校独自の学習ツールに加えて、外部の学習ツールなどと連携しているケースもあります。

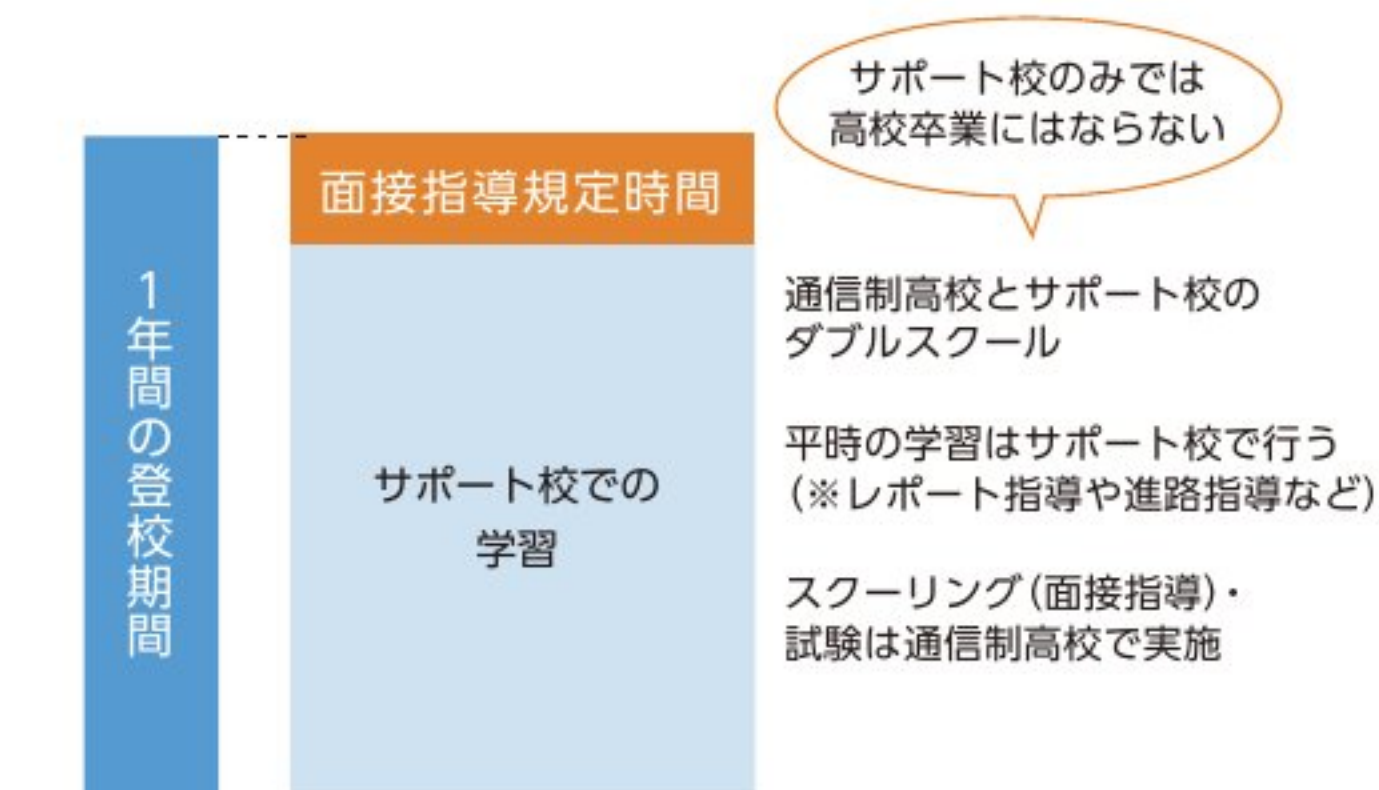
注意点としては、インターネットの学習のみで、通信制高校の正規の教育課程を終了することはできず、必ず学校への登校とスクーリングの出席が必要になるという点です。



(4) 外部教育機関(サポート校など)と提携する学校

自校の教育施設だけでなく、外部の教育機関と提携しているケースです。この形態が昨今の通信制高校の学習形態で一番複雑な形となっています。この形態は、通信制高校と同時に他のサポート校に入学しているケースも多く、ダブルスクールとなっていることが特徴です。

サポート校での学習のみでは、高等学校の単位修得はできませんので、自身が学ぶ教育施設がどのような形態かをしっかり理解して選択することが重要です。サポート校の仕組みは、次のページでも改めて説明します。



技能連携校

都道府県教育委員会の指定を受け、その実施する技能教育の学修成果を連携する高校の一部の教科の履修とみなす教育施設で、主に専門学校(高等課程)や高等専修学校と連携している場合があります。技能教育にはその技能教育施設の指導者が技能教育を実施し、その施設の一部を使用して、通信制高校の教員がスクーリング等を行うことで高校卒業資格と技能教育施設の修了・卒業資格を同時に得ることができます。

技能教育施設で学ぶことができる技能は、情報処理、商業実務、服飾・家政、美容、動物、文化・教養などがあり、全国に約280校あります。

サポート校

サポート校とは、通信制高校の生徒が高校を卒業するためのサポートを行うスクールで、高等学校ではなく民間の教育機関です。主に学習面と生活面のサポートを行い、学習面では通信制高校のレポート作成について自分一人では進めにくい場合や理解が深まらない場合にサポートを受けることができます。

また、人間関係などの構築のために週3日通学コースなど通学する日数を増やしたり、大学進学対策などをおこなったりもしています。ただし、サポート校は国に認可された学校ではないため、学校教育法のもと、学校側の人員や設備等に決まりが定められている正規の学校と違い、サポート校はこの法律に影響されません。

そのため、教員免許を持たない人が指導にあたることや、経営が立ち行かず潰れてしまったとしても何の保障も無いという危険性があります。また、スクーリングは通信制高校やその高校が指定する施設(大学や専門学校など)で出席する必要があります。

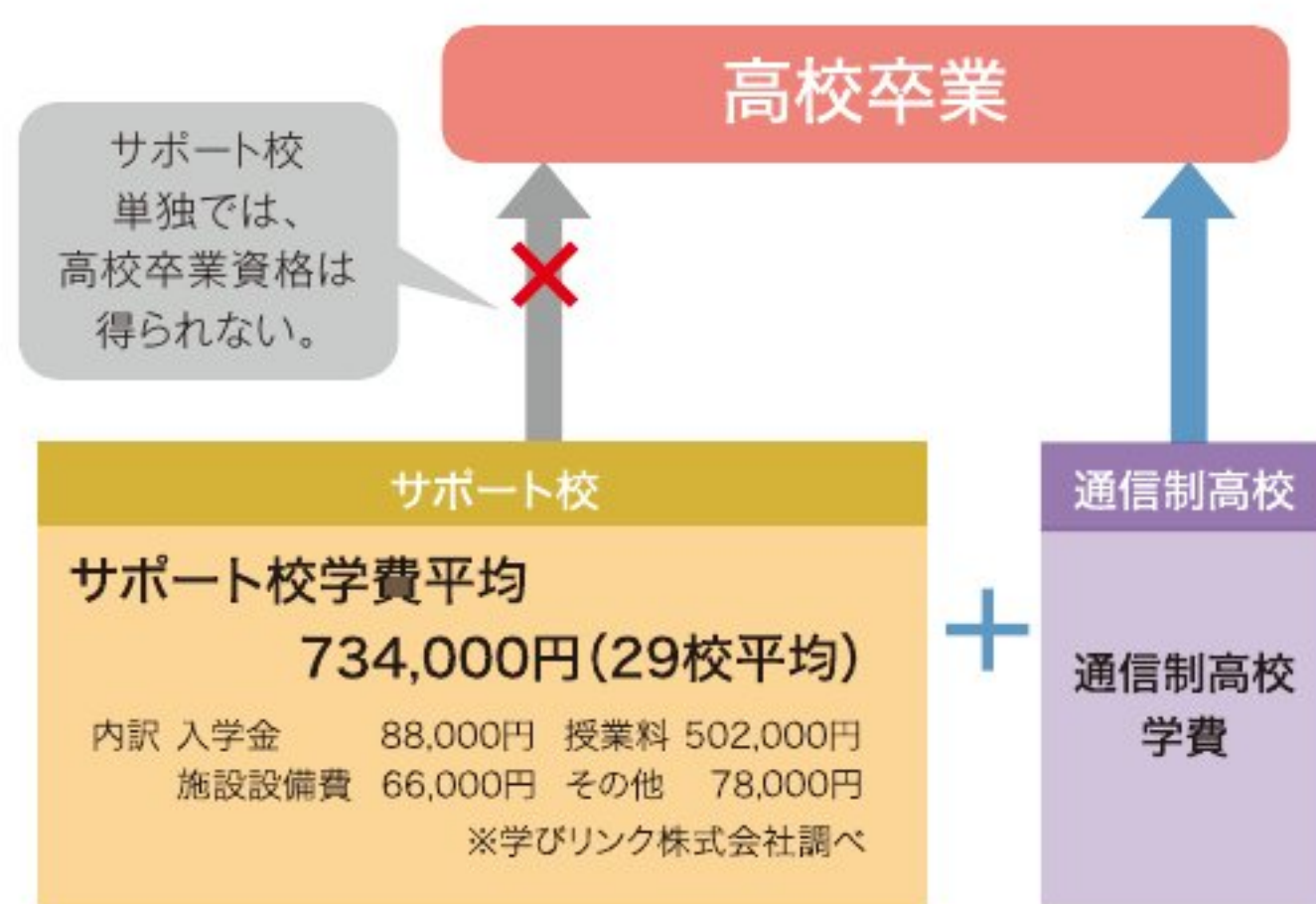
学費面では、高校とサポート校の両方に入学が必要となるため、入学金やその他の費用が2校分かかります。

■サポート校のしくみと学費について

サポート校とは、通信制高校とは別組織として運営されている民間施設のことです。サポート校自体には高校を卒業させる資格が無く、あくまでも在籍している通信制高校の学習を支援することを目的としています。

一般的にサポート校は、〇〇高等学院や〇〇高等部、〇〇スクールなどの名称で設置されていることが多いです。サポート校は通信制高等学校のサポートという位置付けで、高等学校のカリキュラムと混同するような内容を実施しているケースがありますが、実際は通信制高等学校としての学習活動としては認められていません。

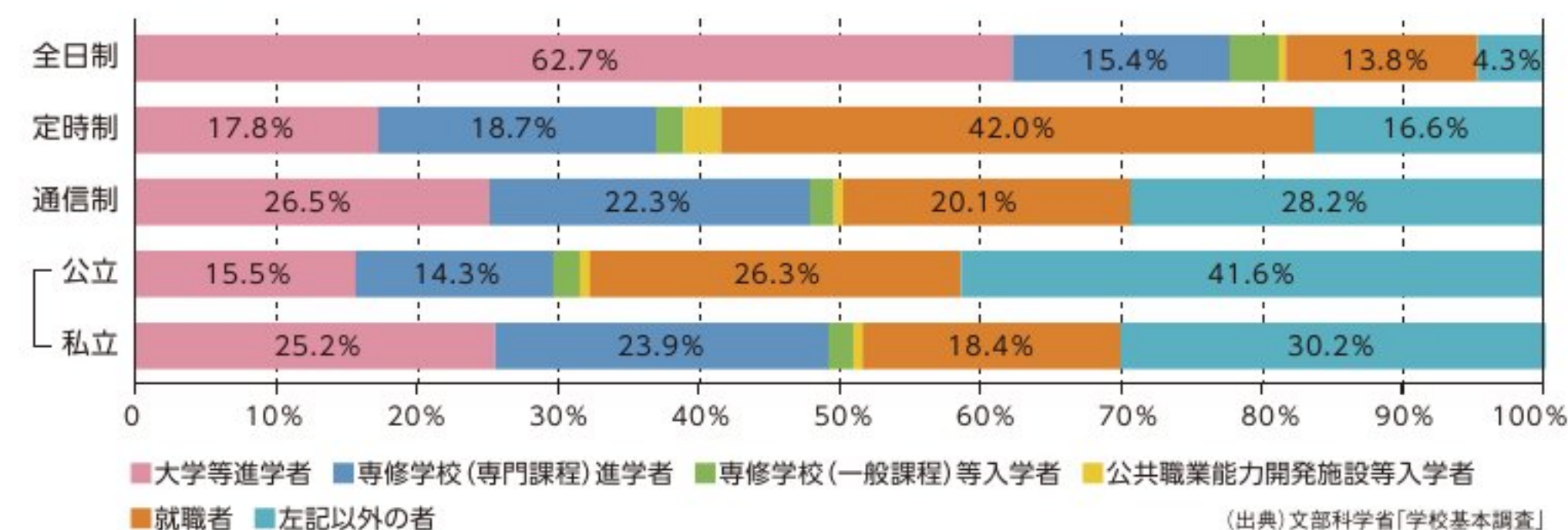
サポート校にかかる学費は様々ですが、平均としては右表の通りです。これとは別に通信制高等学校への学費も必要となりますので、通信制高校単独で在籍するよりも学費が多くかかることが一般的です。



大阪通信制高校グループの大阪府認可通信制高校は、原則サポート校との連携は行っておりません。技能教育施設と連携している学校は、その連携先の学校の教育特色と自校の教育内容を並列で分かりやすく入学検討者に理解してもらえるように努めています。

＜通信制高校の進路の現状(令和5年度 課程別比較)＞

○通信制課程の卒業後の状況について、令和6年5月1日現在、令和5年度間に卒業した者のうち、大学等進学者が26.5%、専修学校(専門課程)進学者が22.3%、就職者が20.1%。



(※1)大学等進学者とは、大学(学部)、短期大学(本科)、大学・短期大学の通信教育部(正規の課程)及び放送大学(全科履修生)、大学・短期大学(別科)、高等学校(専攻科)及び特別支援学校高等部(専攻科)へ進学した者及び進学しなかった者を示す。

(※2)専修学校(専門課程)進学者とは、専修学校の専門課程(高等学校卒業程度を入学資格とする課程で通常、専門学校と称する。)へ進学した者及び進学しなかった者を示す。

(※3)専修学校(一般課程)等入学者とは、専修学校の一般課程及び高等課程又は各種学校(予備校等)に入学した者及び入学しなかった者を示す。なお、各種学校への進学者は、正式な認可を受けている学校に進学した者に限る。

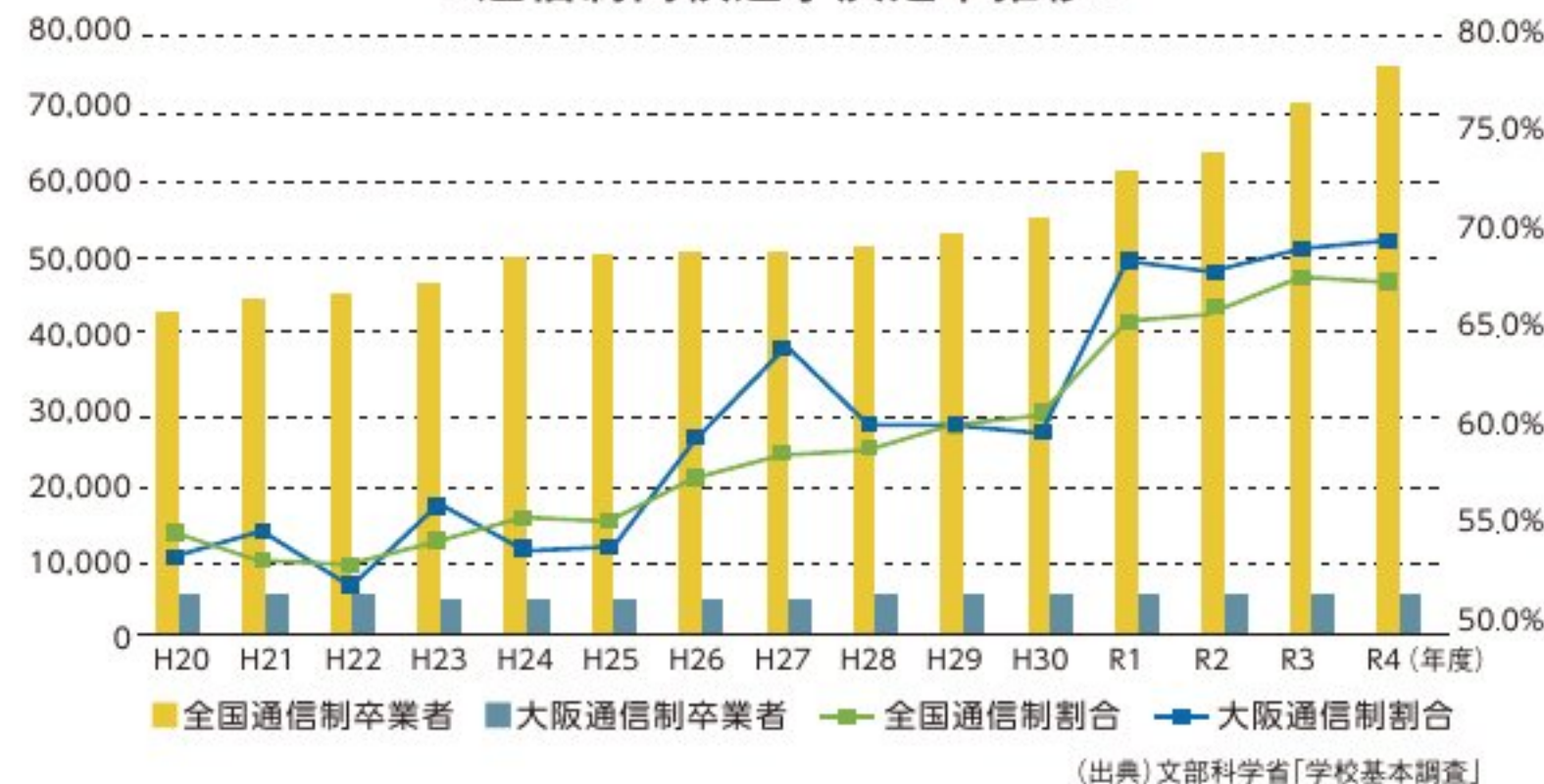
(※4)公共職業能力開発施設等入学者とは、公共職業能力開発施設等(看護師学校養成所、海技大学校及び水産大学校など学校教育法以外の法令に基づいて設置された教育訓練機関含む)に入学した者及び入学しなかった者を示す。

(※5)就職者とは、上記の※1～4以外で就職した者の数を示す。なお、就職とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。

(※6)左記以外の者とは、家事手伝いをしている者、外国の学校に入学した者、上記の※1～5に該当しない者で進路が未定であることが明らかでない者を示す。

令和4年度の高校卒業後の進路未決定者の割合に関するデータを分析すると、通信制高校、全日制高校、定時制高校で大きな差が見られます。全日制高校では、進路未決定者の割合はわずか4.3%と低く、大多数の生徒が進学や就職を確定させています。これに対し、定時制高校では16.6%と進路未決定者の割合が高くなっていますが、通信制高校ではさらに高く28.2%に達しています。また、通信制高校を公私立で分類すると、私立校の進路未決定者の割合が30.2%、公立校が41.6%とここでも傾向に差があります。この結果から、現時点では、通信制高校の卒業生は全日制、定時制と比較して、進路決定率が低くなっている傾向にあり、より多くの支援が必要であることが示唆されます。

＜通信制高校進学決定率推移＞



時期(年度)	全国通信制卒業生	全国通信制進路決定率	大阪通信制卒業生	大阪通信制進路決定率
H20	43,487	55.0%	5,351	54.3%
H21	45,454	54.0%	5,023	55.4%
H22	45,603	53.4%	4,926	52.5%
H23	47,221	54.9%	4,844	56.7%
H24	50,542	55.8%	4,871	54.2%
H25	50,201	55.6%	5,004	54.6%
H26	51,497	58.1%	5,053	60.2%
H27	51,429	59.1%	4,757	64.3%
H28	52,266	59.4%	5,233	60.8%
H29	53,550	60.6%	5,032	60.8%
H30	56,283	60.9%	5,351	60.2%
R1	60,691	65.8%	5,522	68.7%
R2	64,893	66.4%	5,900	68.0%
R3	70,993	68.2%	5,802	69.0%
R4	76,624	67.8%	5,587	69.9%

(出典)文部科学省「学校基本調査」

また、過去15年のデータを確認すると、2008年度時点では、通信制高校全体の進路未決定者は45%であり、現在よりさらに高い数字となっていました。その背景として、複数要因が挙げられますが、在籍生徒の年齢層が今より高く、進路決定という概念より、勤労学生との認識が強かったことや、進路選択を自己決定で行う要素も強くあったと考えられます。また割合の母数となる卒業生数も15年間の間に約33,000人増加しています。その後、在籍生徒の平均年齢の低下や、中学校からの新卒入学生も多く受け入れる学校も増加したことから、通信制高校自体の進路指導の意識や方法に大きな変化が生じ、その進路決定率は着実に改善してきていることが分かります。さらに、大阪府の通信制高校と全国通信制高校を比較すると、全国平均より高い進路決定率になっていることが確認できます。

通信制高校では、個々の学校で課題を設定しながら、一人でも多くの進路実現が叶うように進路個別指導の強化、メンタルヘルスのサポート、就職支援の強化、オンライン教育の充実など、さまざまな取り組みを通じて、通信制高校の生徒がより良い未来を築くための支援が充実し、進路未決定者の割合をさらに減少させることを目指しています。

■大阪通信制高校の進路指導の現状

進路指導課題	学力や進路希望の幅が大きい、個別進路指導の強化が求められる。	進路希望を持つことの動機付けができる体験や学習が必要	自己肯定感の向上を含むメンタルヘルスサポート
--------	--------------------------------	----------------------------	------------------------

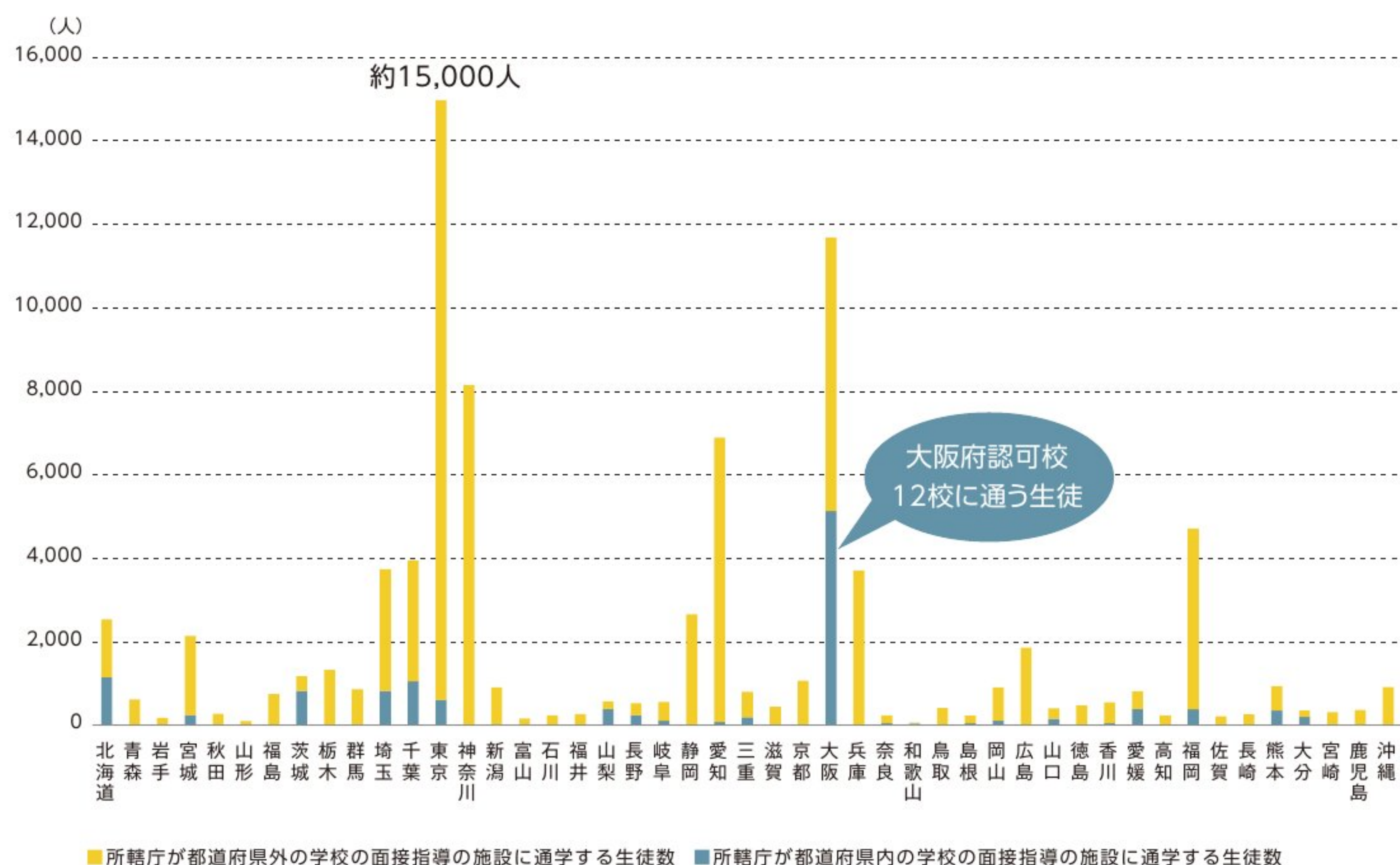
大阪通信制高校グループ12校では、進路指導関連の取り組みの一例として、進学・就職ガイダンス、志望理由書・面接・小論文指導、大学進学、対象コース・講座、職場体験、学び直し学習、資格・検定講座などを実施しています。これらの行事に主体的・積極的に参加できる生徒がいる一方、最初は受け身の生徒、将来の進路について考えるところからアドバイスが必要な生徒もたくさんいます。各校では、生徒に自分の進路を考えさせる機会を作るために、生徒や保護者との連携を密に取り、繰り返しコミュニケーションをとることを大切にしています。

こうしたコミュニケーションの結果、体調不良が原因で全日制での在籍を続けることができなかったが、自分のペースで学習していくうちに進学や就職を目指せるようになった生徒、配慮が必要だが学校のサポートを受けて就職先を探すことができるようになった生徒も多くなります。できるだけ一人ひとりがよりよい進路を実現できることを目指して、「多様化する進路に向けて少しでも早く考え出すためのサポート、学力差に応じた進路指導、進学後や就職後を見据えた生活リズムの定着、配慮を要する生徒の就職指導等、奨学金情報の提供やアドバイス」などを今後も充実させるよう取り組んでいます。

大阪通信制高校グループ12校は、それぞれの学校が抱える進路指導における課題意識を共有して、定期的な意見交換もおこなっています。また、年に1～2回、通信制高校に理解のある学校や企業が集う合同進学相談会も12校で実施しています。「通信制高校の進路指導」をより強化していくことを目指していますので今後の報告にご期待ください。

(1) 広域制通信制高校が大都市圏に集中する現状

全国の通信制高校が展開するスクーリング(面接指導)を実施する施設に通学する生徒数は、東京都、大阪府、神奈川県、愛知県、福岡県などの大都市圏に集中しており、これらの5都府県の生徒数で全国の5割以上を占めています。また、これらの施設に通学する生徒については、当該都道府県外の自治体が所轄庁となっている学校の施設が大半を占めています。



(出典) 文部科学省「広域通信制高等学校の展開するサテライト施設一覧」(令和元年5月1日現在)より作成
※近畿大阪高等学校は2023年度開校のため含まない

上記の図で詳細を確認してみましょう。この図は、広域通信制高校が展開する全国の面接指導実施施設に通学する生徒数の状況です。例えば、東京都を見ると、東京都で展開されている、通信制高校の面接指導実施施設には、約15,000人の生徒が通学していますが、その大半は東京都以外の都道府県で認可を受ける通信制高校の施設であることがわかります。東京都の通信制高校に通学する生徒は、1,000人未満という数字になっています。

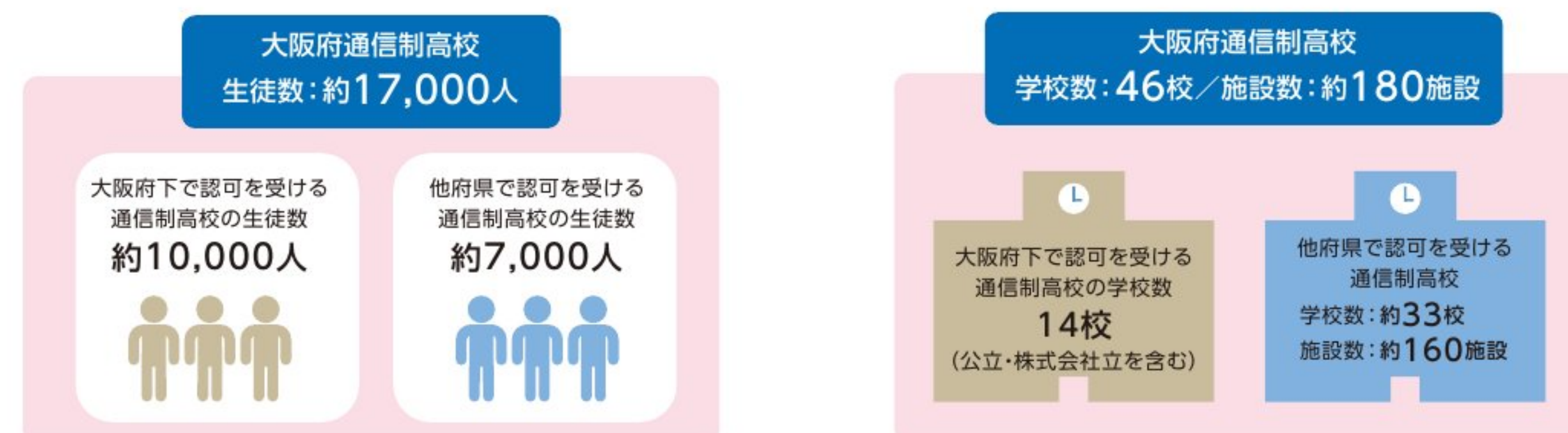
大阪府の状況も見てみます。大阪府は、広域通信制高校に約12,000人の生徒が通学していますが、約5,000人が、大阪府で認可を受ける通信制高校の施設に通学していることがわかります。同じ大都市圏においても、この割合にはそれぞれ特徴があることが分かり、大阪府は、大阪府で認可を受けている通信制高校に在籍している生徒の割合が他の都道府県より多いということが分析できます。

「大阪府の通信制高校に通う」ということと、「大阪府で展開されている他の都道府県の通信制高校に通う」という意味はこの様に異なります。



(2) 大阪府の通信制高校の状況

大阪府には、令和元年時点で、通信制高校に通学する生徒が約17,000人いました。そのうち広域通信制高校に通学する生徒が、約12,000人、また他の都道府県で認可されている通信制高校に通学する生徒が、約7,000人という数字になっています。



先述のとおり、「大阪府の通信制高校に入学する」という意味は、色々な意味で考えることができます。

大阪府で認可を受ける通信制高校へ入学するのか、他の都道府県の通信制高校が展開するスクーリング施設に通学することなのかという考え方です。上記の施設の中には、サポート校なども含まれています。**自身が通学する学校の構造がどのようになっているかをしっかり理解することが大切です。**

(3) 大阪府認可通信制高校と他府県認可通信制高校の違い

全国の通信制高校において、その教育制度や学習システムは大きく変化してきています。よって、大阪府在住生徒が通信制高校への入学を検討する場合、「大阪府認可」と「他府県認可」による、教育内容の違いは大きく存在しません。むしろこの点は、都道府県の違いではなく、学校ごとの特色の差が大きく存在するため、検討する学校の教育システムを、検討者がしっかり理解する必要があります。

では、「大阪府認可」と「他府県認可」の違いとは何でしょうか。大阪府在住生徒の目線で考えた場合は学ぶ場所の違いが挙げられます。一部都道府県では制度が異なりますが、通信制高校は原則認可を受ける都道府県でスクーリング(面接指導)や試験を受ける必要があります。教育課程内のスクーリング以外の日々の学習を、大阪府内の教育施設で実施し、スクーリング(面接指導)や単位認定試験は、認可を受ける都道府県に受講・受験しに行くシステムが多く取り入れられています。一般的に「集中スクーリング」や「宿泊スクーリング」と言われる形態です。



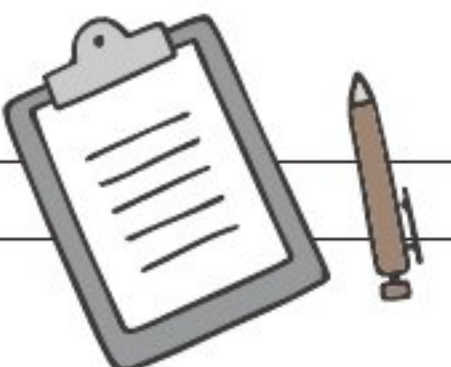
スクーリング(面接指導)実施場所

登校場所	大阪府認可校	他府県認可校
大阪府内	認可施設 スクーリング(面接指導) 基礎学習 学び直し学習 体験型学習 専門学習 資格取得	サテライト施設(サポート校)など 基礎学習 学び直し学習 体験型学習 専門学習 資格取得
他府県	大阪府内で日常的教育活動やスクーリングを受講する 他府県にある本校施設でスクーリングを受講 例：集中スクーリング 宿泊スクーリング	他府県認可施設 スクーリング(面接指導)

平成27年度に発生したウィッツ青山学園高等学校による高等学校等就学支援金の不正受給事案を受けて、その後文部科学省においては、「広域制通信制高校の教育運営改善緊急タスクフォース」が設置され、の中で策定された集中改革プログラムに基づき、平成28年度には「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン（以下、ガイドライン）」が策定され、国と所轄庁による共同点検調査が実施されました。令和元年度に設置された「通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究協力者会議」においては、複雑な仕組みの高等学校通信制課程に寄せられる期待と疑念、その双方の視点を踏まえ、これからの時代に対応した高等学校通信教育の在るべき姿の実現に向けて、高等学校通信教育の質保証方策、新時代の高等学校通信教育の在り方、といった2点を中心に検討が進められ、その後の文部科学省の取り組みにもつながっています。

通信制高校の質の確保向上に関する文部科学省の取り組み

年度	内 容
令和2年度	中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」答申（1月） 「通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究協力者会議 審議まとめ」（2月） 学校教育法施行規則の改正、高等学校通信教育規定の改正、学習指導要領の改訂、「ガイドライン」の改訂
令和3年度	「『令和の日本型学校教育』の実現に向けた通信制高等学校の在り方に関する調査研究協力者会議」の設置（9月）
令和4年度	「『令和の日本型学校教育』の実現に向けた通信制高等学校の在り方に関する調査研究協力者会議」審議まとめ（8月） 合同点検調査による所轄庁間の連携協力に向けた事務契約書（案）作成、合同点検調査実施（11月） 高等学校通信教育規程の改正、「ガイドライン」の改訂 所轄庁向けの広域通信制高校のサテライト施設の最新情報や指導監督のためのノウハウの共有、データの共有を行うための都道府県間プラットフォームの構築を予算事業にて実施（12月）
令和5年度	「高等学校教育の在り方ワーキンググループ 中間まとめ」（8月） 通信制課程に係る私立高等学校の認可基準（標準例）の策定（11月）
令和6年度	中学校等の教職員や生徒・保護者等が通信制課程の制度や特徴などを正しく理解できるようにするためのウェブサイト構築に向けた委託調査事業を実施（予定） 各校において関係法令・ガイドラインで定める内容を実施できているか確認するための「自己点検チェックシート（仮称）」の試行実施（予定）

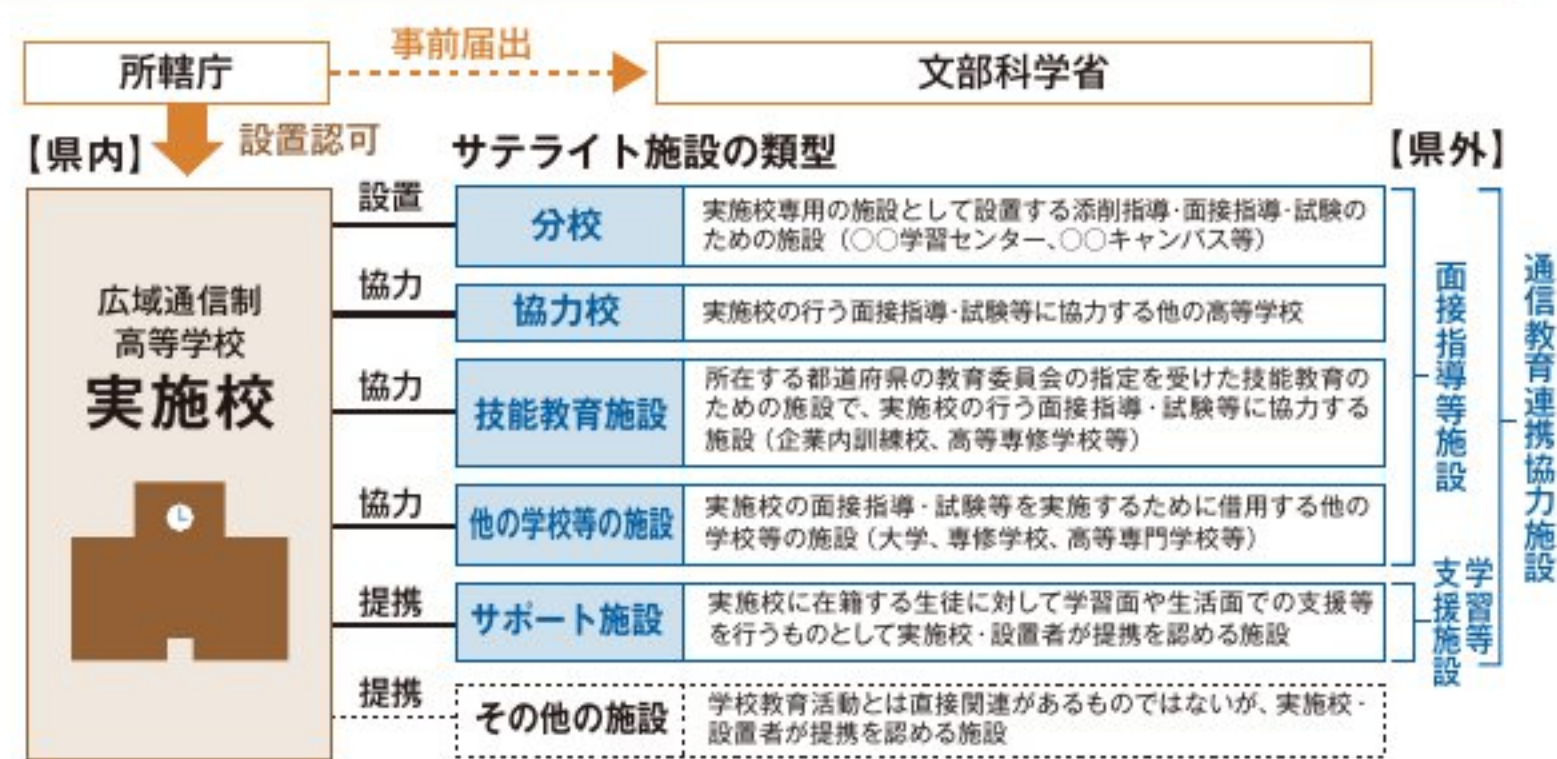


広域通信制高等学校のサテライト施設の類型について

通信制高校の施設は実施校とは別の形態の学習施設が全国に存在しており、サテライト施設と呼ばれています。サテライト施設はその教育内容や実態が分かりづらいことも問題視されていましたが、令和4年に改訂された「ガイドライン」においては通信教育連携協力施設の定義が以下のとおり定められ、その形態や定員数などを各校が学則等に記載することが義務付けられました。

<図について>

- 通信制高校のうち、**3以上の都道府県で生徒募集を行い、通信教育を実施する学校を広域通信制高等学校**という。広域通信制高等学校の設置等を認可する場合には、所轄庁はあらかじめ文部科学省へ届出を行うことになる。
- 広域通信制高等学校は所轄の都道府県の区域を超えて教育活動を行い、その本校（実施校）とは別に、面接指導や添削指導のサポート等を実施するためのサテライト施設を広範に展開する学校も多く存在している。**



通信制課程に係る私立高等学校の認可基準（標準例）のポイント

令和5年11月には、高等学校通信教育の質の確保・向上を図る観点から、各都道府県による設置認可の際に、その所轄庁において特に確認しておくことが望ましい標準的な事項が示されました。通信制高等学校は、都道府県により設置基準の異なる点も多い現状があったため、この標準例により都道府県所轄庁の適切な認可・指導監督が求められています。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| (1) 立地条件等に関すること | (5) 教職員組織に関すること |
| (2) 名称に関すること | (6) 施設及び設備に関すること |
| (3) 規模に関すること | (7) 通信教育連携協力施設に関すること |
| (4) 通信教育を行う区域に関すること | (8) 通信教育の方法に関すること |

高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ

令和7年2月には高等学校教育の在り方ワーキンググループにより審議がまとめられました。本報告書では、少子化の進展や地域社会の変化に対応した高等学校教育の在り方について検討し、具体的な提案がまとめられています。少子化による生徒数の減少に伴い、高等学校の適正配置や教育資源の最適化が求められており、地域社会全体で生徒の多様な学習ニーズに応えることが必要とされています。また本報告書の中の「全日制・定時制・通信制の望ましい在り方」の中で、通信制課程においては下記のとおり提言されています。各通信制高校は自校の運営・教育内容を今一度見直すことが求められています。

(1) 通信制課程については、生徒がその後の進路にかかわらず、自立した学習者として社会で生きていくために広く必要となる資質・能力を身に付けられるよう、必要な支援体制を整えていくとともに、全日制・定時制課程に比較して少ない登校回数下で、生徒が人間関係を築きながら、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働する機会を充実させていくことが重要である。これは、通信制課程は勤労青年に高等学校教育の機会を提供することを目的として制度化されたものであるため、自宅等で自立して学習することが前提となっているが、現状は大きく異なり、実際は勤労青年だけでなく、多様な課題を抱える生徒が多く在籍している状況にあるからである。

(2) この点、通信制課程は、現状、多様な生徒の学びに対するセーフティネットになっていると考えられ、実際、不登校経験を有する生徒や特別な支援を必要とする生徒など、多様な背景を有する生徒に対して手厚い支援を行っている学校もある。他方、違法・不適切な学校運営や教育活動が指摘されている通信制高等学校の例も一部に存在するため、令和4年8月の「『令和の日本型学校教育』の実現に向けた通信制高等学校の在り方に関する調査研究協力者会議（審議まとめ）」を踏まえ、引き続き、質の確保・向上を図っていくことも必要である。

(3) 加えて、通信制課程に在籍する生徒数は、私立において大幅に増加する一方で、公立においては減少傾向にあるが、公立の通信制の高等学校は、特に経済的な面にも課題を抱える生徒にとって重要な教育機関であることから、地域の協力も得ながら一層の魅力向上・機能強化を図っていく必要がある。また、中学校等の教職員や生徒・保護者等が通信制課程の制度や特徴などを正しく理解できるように国などが責任をもって分かりやすく情報を発信していくとともに、不登校経験を有する生徒が高等学校に進学した後の見通しを持てるよう、不登校の生徒本人に対する継続的な実態調査を行っていくことも重要である。

通信制高校の学費

通信制高校は、1単位あたりの授業料をもとに生徒の履修単位数によって授業料が計算されます。卒業に必要な単位数は74単位以上となるため、3年間で卒業する場合は平均すると年間25単位程度の履修となりますが、履修単位数は生徒の状況によって変えることができるので、授業料もそれに応じたものになります。

通信制高校の授業料も、国からの就学支援金により、実質負担額が減額されます。私立通信制高校生への就学支援金は、1単位あたり、4,812円です。25単位履修した場合は、120,300円となり、卒業までに74単位分356,088円が支給されます。ただし、親権者の所得により就学支援金が受給できないケースもあります。

また、親権者の所得により上記支給額に2.5倍を上限とした加算制度があります。

就学支援金

①私立通信制高校の場合の(国)就学支援金支給額

1単位あたりの支給額 ▼ 4,812円	25単位履修した場合 ▼ 120,300円	卒業までに74単位分支給 ▼ 356,088円
---------------------------	-----------------------------	-------------------------------

②大阪府認可私立通信制高等学校の世帯収入別生徒負担額

大阪府認可私立高等学校においては、先述した「(国)就学支援金」と、「大阪府私立高等学校等授業料支援補助金（大阪府在住の生徒に限る）」ならびに「学校免除」の各制度により4人世帯で年収590万円未満（扶養人数により上下します）の家庭は、授業料が実質無償となっています。大阪府認可の通信制高校における生徒の授業料負担については、以下のようになります。

年収590万円未満の世帯	年収590万円以上 910万円未満の世帯	年収910万円以上の世帯
負担額 0円	1単位あたり 4,812円を差し引いた金額	全額生徒負担

ただし、支援対象となる単位数は生徒一人あたり年間30単位までとし、4年間で74単位が上限となっています。なお、各学校により1単位あたりの授業料が異なりますので、詳しくは各学校にお問い合わせいただくか、ホームページや学校案内等をご覧ください。また、入学金やその他の経費、授業料の納入時期についても各学校により異なりますので、あわせてご確認ください。

大阪府私立高等学校における学費補助制度

①高等学校等就学支援金制度(全国)

平成22年度より実施されている授業料軽減制度・各家庭の所得状況に応じ、軽減額は異なります。

②私立高等学校等授業料支援補助金(大阪府)

国の就学支援金と併せて、私立高等学校の授業料等の保護者負担がご家庭の所得状況に関わらず無償となる制度です(※)。大阪府内に生徒・保護者の住所があること、大阪府認可の私立高等学校のうち、対象となっている高等学校であることなど諸条件があります。

③私立高等学校等奨学のための給付金(都道府県ごとに設定)

大阪府内に在住する生活保護（生業扶助）・非課税世帯の親権者に対し、授業料以外の教育費の経済的負担を軽減するための給付金制度です。

④大阪府私立高等学校等学び直し支援金(全国)

高等学校等を中途退学した方が、再び高等学校等で学び直す場合に、高等学校等就学支援金の支給期間終了後も卒業するまでの間の最長2年間支援金が給付される制度です。給付額は課税者の所得によります。

⑤その他各種奨学金・国の教育ローンなど



全日型のクラスで
毎日頑張っています！

ケース1

八洲学園高等学校
所属クラス:週5日登校型
Aさん

1日の流れ

8:40 登校
時間に余裕を持って登校

8:50 SHR
1日の流れをSHRで確認！

9:00 基礎国語
反復しながら学習することで
基礎学力の定着を目指します

10:00 就労体験
校内でのカフェ運営や
軽作業、SST等を通して
社会生活に必要な経験をする
事ができます

11:00 チャレンジ活動
栽培、ものづくり、制作活動、
調理など、様々な実習の中で
自分の適性を知ります

昼食
みんなと話しながら
お弁当タイム

12:40 進路ガイダンス
卒業後に必要な知識を
身につけます

13:40 スクーリング
プリント授業なので
分かりやすい！

14:40 スクーリング
分からないところは
授業後に先生に質問

15:30 放課後
下校時刻まで
友達とおしゃべり

16:00 下校
介護職につくための
勉強をしているよ！



繰り返し覚えると
定着するね！



楽しくお仕事を
模擬体験！



自分たちで
収穫しました！



今日も楽しかったね！

週3日の通学を
頑張っています！

ケース2

YMCA学院高等学校
所属クラス:週3日の昼から通学型
T君

1日の流れ

11:20 登校
余裕を持って
15分前には登校！

11:30 クラスワーク
クラスメイトと
仲良くなれるチャンス！

12:20 昼食
友人との
お弁当タイム！



おはようございます！



みんなで食べると
美味しいね！

13:00 スクーリング
英語は、中学校の学び直しから
高校のレベルUPに取り組んでいます！

14:00 スクーリング
色んな生物が知れておもしろい！

15:00 スクーリング
歴史上の偉人や
格言などが魅力！

15:50 SHR
1日のふりかえりを
ノートに記入、
翌日の確認もします！

16:00 進学学習
大学受験に向けて
英語を強化中！

17:30 下校



皆勤賞目指して
頑張っています！

ケース3

東朋学園高等学校
所属クラス:週3日通学クラス
Tさん

1日の流れ

9:30 登校
朝はちょっと早めに20分前に登校

9:50 朝礼
一日の流れを確認！

10:00 ベーシック英語
動詞の活用形について復習



1時間目から
しっかり集中！

11:00 ベーシック社会
中学校の内容を学びなおし。
47都道府県、書けるか挑戦！

11:50 昼食
クラスメイトと仲良く
お弁当タイム

12:30 ベーシック国語
漢検対策で小テスト

13:30 LHR
みんなで協力して、
学校の掲示物づくり！

14:20 終礼
提出物や宿題の確認！

14:30 放課後
帰る前に図書室で
おしゃべりタイム

15:00 下校
家に帰ったら、宿題と
明日の予習を頑張ります！



1時間目から
しっかり集中！



みんなで協力して
仕上げます！



下校前の楽しい
時間です！

学校生活に慣れ、
通うのが楽しいです。
部活動に所属し、
体力と自信が
つきました！

ケース4

神須学園高等学校
所属クラス:週2～5日登校型
O君

1日の流れ

12:30 登校
今日は午後からの登校です。

12:55 SHR
朝学活、今日の授業を確認します。

13:00 英語コミュニケーション
班で授業の課題にとりこんでいます。



クラスの
居心地が良く、
相談しやすい
雰囲気です。

14:00 数学Ⅰ(スクーリング)

15:00 科学と人間生活(スクーリング)



先生がわからない
ところを優しく
教えてくれます。

16:00 部活動



今年も全国大会出場に向けて
練習しています！

英風高等学校 Eifu

〒553-0006
大阪市福島区吉野4-13-4
TEL.06-6464-0668
FAX.06-6464-1130
<https://www.eifu.ed.jp/>



本校は、全国でも数少ない【女子だけの通信制高校】です。授業は原則週2日、お昼からのスタートですので、朝が苦手な方や遠方の方、満員電車が苦手な方でも安心して登校することができます。また、女子校ならではの多彩な特別活動を導入しており、韓国語講座、和菓子とお茶作りなど年間30種類を超える活動を実施しています。その他、染髪・化粧の禁止などの校則を設け、静かな授業と落ち着いた校内の環境作りに取り組んでいます。「学び直し」もできるほか、進路指導体制も充実しており、昨年度の進学率は95%！制服は2026年度よりリニューアルが決定！異性の目を気にせず、ありのままの自分でいられる、特色ある通信制女子校です。

大阪つくば開成高等学校 Tsukuba

〒530-0043
大阪府大阪市北区天満2-2-16
TEL.06-6352-0022
FAX.06-6352-0021
<https://otk.ed.jp/>



地上5階地下1階の1号館の向かいに5階建ての2号館があります。天満橋駅徒歩4分の好立地ですが、梅田への移転を計画中です。年4、5日～毎日でも登校可。希望者のみ選択できるデジタルイラスト、調理パティシエ、美容、IT、ミュージック、ダンス、心理学、ボーカロイドなどが学べる専門コースがあります。公認心理師・臨床心理士3名によるカウンセリングも実施。起立性調節障害等の生徒も安心して学べます。行事やクラブ活動は生徒たちの意見が反映される教育方針で、友達作りを支援します。担任、体育実技も自分で選べ、一人ひとりに合った学校生活が送れます。本校は、生徒・保護者の皆さんがつくる学校です。授業見学も随時受付中！

秋桜高等学校 Shuoh

〒597-0002
大阪府貝塚市新町2-10
TEL.072-432-6007
FAX.072-432-1996
<https://www.shuoh.ed.jp/>



秋桜の願いは「自分もまわりの人も大切に楽しく学ぶ」ということ、「その人らしく、うれしい気持ちですごせるように」ということです。「勉強がきらい」「学校生活がなんとなく苦手」「人づきあいに自信がない」などと思っている人も、誰もが安心して学校生活が楽しめるようにと私たちは思っています。学習については、手作りのプリントや教材を使い、誰もが学ぶことの楽しさを感じられて、参加できる授業づくりを目指しています。行事(特別活動)についても、毎年楽しめるものを企画しています。一人ひとり、どの人もが安心して学び、すごせる空間を保障したいと私たちは思っています。

天王寺学館高等学校 Tennoji

〒547-0041
大阪市平野区平野北1-10-43
TEL.06-6795-1860
FAX.06-6795-1866
<https://www.tg-group.ac.jp/tgkoko/>



大阪府及び奈良県を校区とする通学型の「狭域通信制」高等学校です。本校は総合学科と単位制の制度を活かし、目的に合わせた科目を生徒自身が選択できるシステムです。在宅学習(年間20日程度登校)中心のコースから、週3～5日登校の通信／通学部のコースまで個々の変化に合わせ、年2回コース変更出来ます。選択科目は多彩で90以上あり、美術コースでは専門的な授業も開講されています。進路指導にも注力し、毎年難関大学への進学者を多数輩出しています。これまでは関係ありません。これから大切に、高校生活と一緒に歩んでみませんか。

近畿大阪高等学校 Kinki Osaka

〒599-0232
大阪府阪南市箱作1054番1
TEL.072-447-4761
FAX.072-447-4763
<https://koutoku.ac.jp/kinkiosaka/>



2023年4月に開学した大学法人が運営する通信制高等学校です。選べる学習スタイルは(週1日・3日・5日・自宅・オンラインコース)があり、自分のペースで学べます。また、イラストや心理学、ミュージック、ICT等の多彩なカリキュラムは、大学との連携の一環として、スペシャルな講師陣から学べます。そのほか、ネイルアート、アロマセラピー、自然体験、マンガ等の多彩なプログラムも用意しています。臨床心理士、公認心理師等の専門家が心と発達の支援を行い、一人一人の成長とニーズに合わせたサポートと、大学、短期大学への内部進学等の安心の進路指導で、充実した高校生活を支援します。

賢明学院高等学校 Kenmei

〒590-0812
大阪府堺市堺区霞ヶ丘町4丁-3-30
TEL.072-241-2111
FAX.072-241-1576
<https://kenmei.jp/correspondencecourse/>



大阪府堺市の賢明学院高等学校は、大阪府唯一の全日制高校が併設されている普通科通信制課程の高等学校です。新たに開設した2つのコースから登校日数と学習内容を選択できます。「スタンダードプラスコース」は週に3日～5日の登校スタイルで、バラエティ豊かな体験活動や安心の学び直しを通して、仲間づくりや進路実現を目指します。「土曜コース」は週に1日からの登校スタイルで自分のペースで学び卒業を目指します。どちらのコースもクラス担任制によるきめ細かなサポートが卒業まで続き、一人ひとりを希望進路の実現へと導きます。いつも仲間と先生が寄り添ってくれる学校、学ぶ楽しさと祈る大切さを体験できる学校です。

東朋学園高等学校 Toho

〒543-0017
大阪府大阪市天王寺区城南寺町7-28
TEL.06-6761-3111
FAX.06-6761-3112
<http://www.okazakitoho.ed.jp/>



岡崎学園は、創立79周年を迎えた学校法人です。多様なニーズにこたえるため、2020年4月に東朋学園高等学校通信制課程を大阪上本町に開校しました。生徒たちの可能性を最大限に伸ばすため、自立を促す実践的な知識や技術の習得、考える力を養う教育を展開しています。それぞれが潜在的に持っている、個性や適性、能力を生かして幅広く社会で活躍できる人材育成を目指しています。また、本校の教育をさらに発展させるため、2026年4月より生野区(旧生野南小学校)へ校舎を移転します。移転先には体育館やグラウンドがあり、通信制高校では珍しい環境で学校生活を送ることができます。

長尾谷高等学校 Nagaodani

〒573-0163
大阪府枚方市長尾元町2-29-27
TEL.072-850-9111
FAX.072-850-6116
<https://www.nagaodani.ed.jp/>



住所記載の枚方本校だけでなく、大阪市内に梅田校・なんば校があります。いずれも交通アクセスの便利などがあり、基本的に同じシステムによる教育を行っています。自分の住所や生活圏等を考え、通いやすい校舎を選んで入学することが出来ます。月曜日から土曜日まで実施しているスクーリングから自分の選択した科目の定められた回数を出席するというフレックスな時間割となっており、基本的に週1～3日登校する形態のマイスタイルプログラムにて学習を進めます。基本的に固定のホームルームクラスはありませんが、中学新卒入学生で希望者には、スタートクラスというホームルームクラスを設定しています。(希望者が多数の場合抽選になる可能性があります。)

神須学園高等学校 Kozu

〒596-0076
大阪府岸和田市野田町1-7-12
TEL.072-493-3977
FAX.072-493-3976
<https://www.kozu-gakuen.ed.jp/>



本校は、南海岸和田駅から徒歩2分の場所にあり、アシストコースとスタンダードコースの2つのコースを開講しています。不登校経験のある人、クラスメイトと関わる時間がたくさん欲しい人、基礎から学び直しをしたい人、少ない登校回数で卒業資格を取得したい人や時間を有効に使った高校生活を送りたい人など、さまざまなニーズに合わせて高等学校の卒業を目指すことができます。厳しくもあり、この上ないぬくもりのある学校を目指しています。

向陽台高等学校 Koyodai

〒567-0051
大阪府茨木市宿久庄7丁目20-1
TEL.072-643-6681
FAX.072-643-0455
<https://www.koyodai.ed.jp/>



向陽台高等学校は、昭和39(1964)年に創設された広域通信制高等学校で、平成元(1989)年から単位制を導入しています。様々な分野で活躍する卒業生はすでに17万人以上という高校です。本校は、北摂の丘陵地帯に位置しています。本校独自の5ターム(2ヶ月ごとの単位認定)を中心とした実績のある学習システムと教員全員によるサポート体制であります。生徒のニーズに合わせた5つのコースを展開し、卒業後の進路に向けて積極的に取り組んでいます。

八洲学園高等学校 Yashima

〒593-8327
大阪府堺市西区鳳中町8-3-25
TEL.072-262-8281
FAX.072-264-0950
<https://hs.yashima.ac.jp>



八洲学園高等学校は、1992年に開校して以来、約40,000人の卒業生を輩出した実績と伝統のある通信制高校です。大阪府堺市西区の堺本校を中心に、大阪市北区梅田、同市中央区玉造、神戸市中央区三宮と関東に4拠点の計8拠点あります。当校の学習拠点は最寄駅から近く、通いやすい距離にあります。開講クラスは、全日型のベーシッククラス、少人数で自立をテーマに学ぶ5年制クラス、週1～3日登校選択型のマイスタイルクラス、少人数から個別学習のホームサポートクラス、従来の通信制高校のシステムで進める自学自習型の通信クラスで運営しています。

YMCA学院高等学校 YMCA

〒543-0073
大阪市天王寺区生玉寺町1-3
TEL.06-6779-5690
FAX.06-6779-1831
<https://www.ymcagakuin.ac.jp/>



「もっと、あなたらしく。もっと、笑顔に。」一人ひとりを尊重し、大切に、そして皆さんを信頼する学校です。【YMCA学院高等学校の5つのポイント】
①在校生の安心につながる支援体制(3つのケア)があります
②7つのコースから通学スタイルが選べます
③一人ひとりの豊かな成長を応援する総合学科ならではの多彩なカリキュラムと体験活動があります
④同じような悩みや経験をもつ仲間や信頼できる大人、国籍や年齢を超えた人たちと出会えます
⑤自分らしい進路選択を実現するための「学びなおし」や「進学サポートプログラム」があります